

取扱説明書



マキロン 自走式草刈機 MHE-600D



ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みになり
内容をご理解の上、お使い下さい。

株式会社 ケイ・エス・エンタープライズ

2025年4月版

目 次	ページ
はじめに	1
安全上のご注意	
製品を長くお使いいただくために	
安全にお使いいただくために	2-4
自走式モアに係る安全事項	
自走式モアの作業前の安全事項	
自走式モアの作業に係る安全事項	
トラックへの積み降ろしのしかた	
主要諸元	5
付属品	5
各部の名称	6
運転操作の仕方	7
1. 運転前の点検	
①燃料の点検	
②エアクリーナーの点検	
③エンジンオイルの点検	
④各部締め付けネジの点検	
⑤各部の清掃・点検	
⑥燃料もれ・油もれの点検	
⑦潤滑油やグリスの塗布	
⑧タイヤの点検	
2. エンジン始動	8
エンジン始動方法	
エンジンの止め方	
3. 草刈り作業の開始	9-10
作業開始方法	
新品の機械を使用する場合	
刈り取り作業時の注意点	
エンジン周辺の清掃方法	
4. 調整・交換・給油のしかた	11-13
①刈り取り高さの調整	
②ガソリンタンクの点検・給油	
③エンジンオイルの点検・交換	
④点火プラグの点検	
⑤エアークリーナーの点検	
⑥ギアオイルの交換	
⑦グリスアップ	
⑧旋回アシストレバーの注油	
5. メンテナンス	14
定期的なメンテナンスについて	
爪軸ベアリングの清掃方法	
6. 保管	14
①短期保管	
②長期保管	
7. トラブルシューティング	15
8. 消耗品一覧	15
9. 替刃の交換方法	16-17
ご意見・お問い合わせ	17

はじめに

この度はマキロン 自走式モア をご購入ありがとうございます。

安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがございます。

この取扱説明書を熟読しご理解の上、ご使用ください。

この取扱説明書はいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

各ページ記載の警告・注意事項を必ずお読みください。

安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取扱をした場合に生ずる危険とその程度をマークで記載して説明しています。

表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。



警告 避けられない死亡事故か重傷事故をもたらす可能性のある潜在的に危険な事項を示します。



注意 避けられないケガ・事故・物的損害をもたらす可能性のある潜在的に危険な事項を示します。



禁止 取扱においてその行為を禁止します。



指示 指示に基づく行為を強制します。

製品を長くお使いいただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。

注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

自走式モアに係る安全事項



警告



禁止

- ・燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。排気ガスを吸い込まないようにご注意ください。特に屋内、倉庫内など換気の悪い場所では絶対に使用しないでください。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・可動している部分の近くに手又は足を入れないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。当社の保証は一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作させないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。



指示

- ・自動車で運搬する時は、本機の燃料タンクの燃料を抜き、燃料供給レバーを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し漏れることがあります。
- ・ガソリンタンクのキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると引火の恐れがあります。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・ガソリンスタンドで直接エンジンに燃料を投入しないでください。
- ・静電気にご注意ください。燃料を投入する場合は指定のガソリンタンクを使用してください。屋外にて燃料の給油を行ってください。
- ・運転中に点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・停止中でも直接刃物に触れないでください。ケガをすることがあります。
- ・点検整備を行う場合はエンジンスイッチをオフにして、エンジンを停止してください。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラーの一部の他点火プラグの温度も高くなっており、火傷の恐れがあります。
- ・ガソリンエンジンの点検整備を行う場合は、点火プラグキャップを外してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・始動前点検を実施してください。
- ・急傾斜地では使用しないでください。

自走式モアの作業前の安全事項



注意



禁止 ・指定された用途以外には使用しないでください。



指示 ・燃料は無鉛レギュラーガソリンを使ってください。
・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
・定期点検整備を行ってください。
・本機の積み下ろしは、平坦な場所で丈夫なブリッジを確実にかけ、緩い勾配でエンジン回転を下げ、積み込むときは前進「1」速、降ろすときは後進「R」速位置でゆっくり行ってください。

自走式モアの作業に係る安全事項



警告



禁止 ・機械の回転部分は危険です。特にナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近づけないでください。
・他の人が作業区域内に入ると重大な事故が起こることがあります。
作業中は、他の人が作業区域に入らないようにしてください。
・暗い場所での作業は危険ですので、視界の悪い場所などでは使用しないで下さい。
・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
・使用中に異常は発生した場合は、速やかにエンジンを停止し、異常原因を調べてください。
損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。



指示 ・機械の回転部に巻き込まれない服装、滑りにくい安全靴、ヘルメットなどの防護類を使用してください。
・作業中に石等の異物が飛び散る可能性がありますので、目のケガを防止するため、必ず保護メガネを装着してください。
・本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
・危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
・ご使用前には各部ボルト・ナット類がすべて締まっているかどうか確認をしてください。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。
触れるとやけどすることがありますので注意してください。
・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジン停止して点検・修理してください。
・カバーなどは本機が十分冷めてからかけてください。
・本機を長期間保管する時は、取扱説明書にしたがって保管してください。

トラックへ積み降ろしのしかた



警告

- ① トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所をえらんでください。
- ② トラックへの積み降ろしの際には、刈高を調整して刃がブリッジと接触しない位置まで調整しておいてください。
積み降ろしの際に刃がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ③ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギアをバックに入れ、サイドブレーキを引き、タイヤに車止めをしてください。
- ④ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう、また外れないように確実に掛けてください。
- ⑤ 積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないでください。転倒の恐れがあります。
- ⑥ 本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして積み降ろしを行ってください。
- ⑦ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心位置が変わりますので、注意してください。
- ⑧ トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、さらに荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けるようにしてください。



※ブリッジ基準

- ・長さ: トラック荷台の高さの**3.5倍**以上あるもの
- ・幅: 本機の車輪幅にあったもの
- ・強度: 本機重量、
および作業者の体重の総和に十分に耐えるもの
- ・スリップしないように表面処理されているもの

<荷積み 荷降ろしの仕方>

- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
- ② 基準に合ったブリッジを使用してください。
- ③ スロットルレバーは「低」にしてください。
- ④ 積み込むときは前進「1」速、降ろすときは後進「R」速位置で行い、その他の位置には入れないでください。

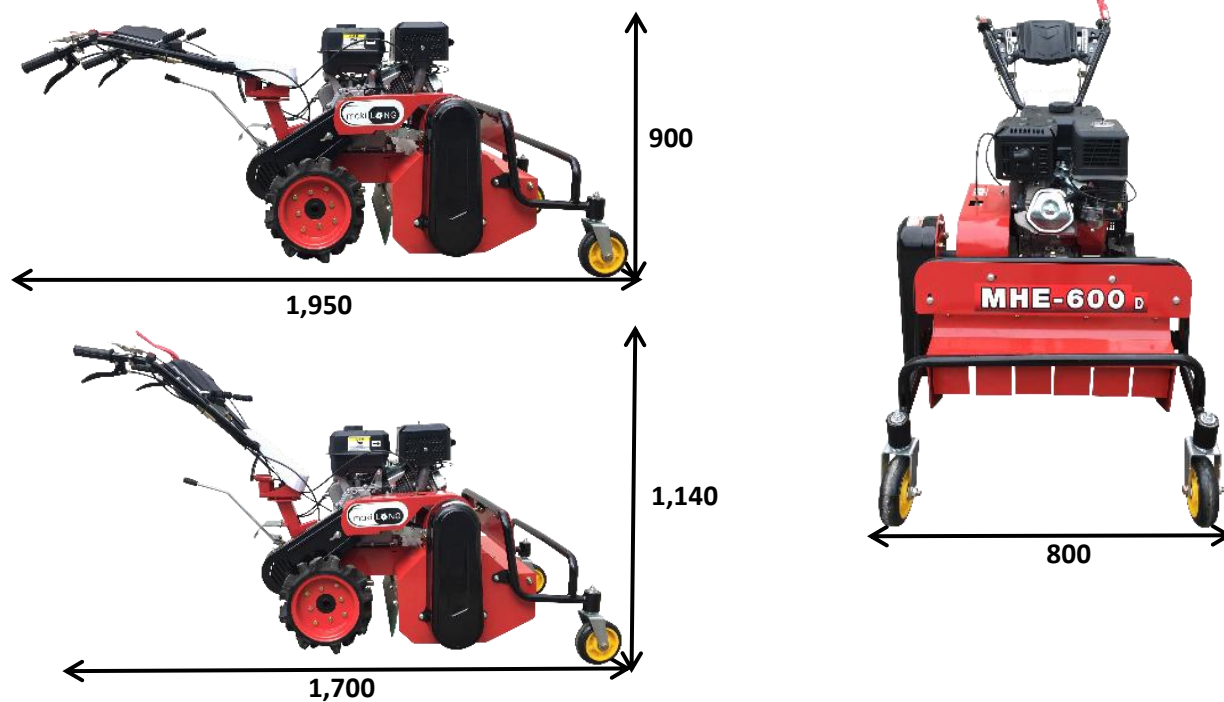
主要諸元

型 式	MHE-600D
全長×全幅×全高 (mm)	(最大) 1,950 × 800 × 1,140
重 量 (kg)	134
刈 幅 (mm)	600
刈 高 (mm)	20～80
刃(枚)	Y字フリーナイフ32枚
速 度(Km/h)	1.6～3.5
処理能力(m ² /h)	1,000m ² ～2,100m ²
エンジン	ガソリンエンジン
最大出力	11.5ps(8.5kw)
燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量(ℓ)	5.4 ※給油の目安は 4ℓ 程度 を推奨
エンジンオイル量(ℓ)	1.1 (10W-30)
始動方式	リコイルスターター
ギアオイル(ℓ)	1.1 (#80)

付属品

名 称	個数
保護メガネ	1
プラグレンチ	1
スパナレンチ (13mm・16mm)	各1

サイズ (単位:mm)



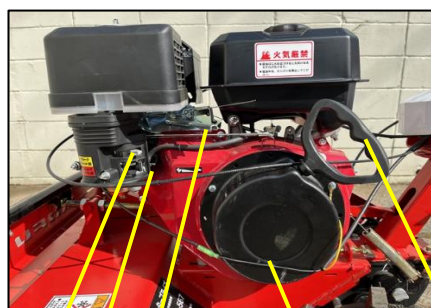
※ 製品の仕様・外観等は改良の為予告なく変更することがあります。予めご了承下さい。

各部の名称



- ① 操作ハンドル
- ② ガソリンタンク
- ③ エンジンマフラー
- ④ エアクリーナー
- ⑤ エンジン
- ⑥ 走行車輪
- ⑦ 爪軸
- ⑧ 前輪

- ⑨ 走行ベルトカバー
- ⑩ 中間ベルトカバー
- ⑪ ナイフベルトカバー
- ⑫ 爪軸カバー
- ⑬ 走行クラッチレバー
- ⑭ ナイフクラッチレバー
- ⑮ エンジンスイッチ
- ⑯ 旋回アシストレバー
- ⑰ スロットルレバー
- ⑱ ハンドル調整レバー(左右)
- ⑲ ハンドル調整レバー(上下)
- ⑳ 変速レバー
- ㉑ ギアボックス

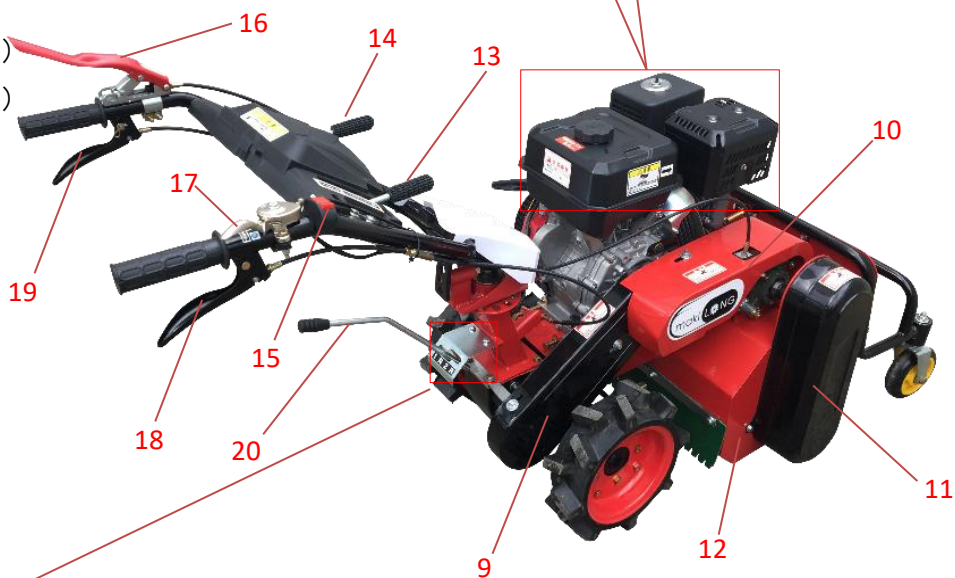
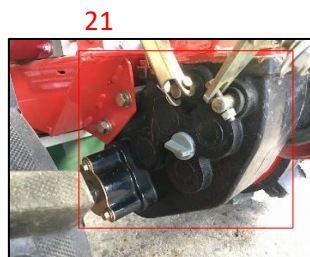


アクセルレバー
燃料コックレバー
チョークレバー

リコイルレバー
リコイルスターター



キャブレター



運転操作の仕方

1. 運転前の点検（運転前には必ず点検してください）

①燃料の点検

- ・燃料の量を点検します。（出荷時が入っていません）
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ・古いガソリンは使用しないでください。
- ・燃料タンクに注入する時は、あふれさせないようにしてください。（上部に2～3cm空間を開けてください。）



注意



禁止

- ・ガソリンは、火気により引火・爆発の危険があります。火気には十分注意をしてください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。

②エアクリーナーの点検（P.12 エアクリーナーの点検参照）

- ・エアクリーナーエレメントが汚れてはいませんか？埃のほかに、エンジンオイルがエレメントに付着している場合があります。

③エンジンオイルの点検（P.11 エンジンオイルの点検・交換 参照）

注意：エンジンオイルが充填されてない状態で始動しますとエンジンの破損・故障の要因になります。

- ・エンジンオイルは規定量入っていますか？（本機のオイルは1.1ℓです）
- ・エンジンオイルは汚れていませんか？
- ・オイルが少なかったり、汚れていた場合は新しいエンジンオイルに交換してください。
- ・エンジンオイルは、10W-30が標準です。

④各部締め付けネジの点検

- ・各部のネジは締まっていますか？
本製品は振動が大きいために長時間の使用でネジが緩む場合があります。

⑤各部の清掃・点検

- ・マフラーやエンジン部の冷却フィン周辺に、薪チップ、草や葉及び可燃物など等が付着していませんか？
- ・リコイルスターターの空気取り入れ口の周りに草や葉及び可燃物等が付着していませんか？
ゴミ等が付着している場合は、必ず取り去ってから運転してください。
付着しまま使用するとオーバーヒートを起こし 故障の原因になります。

⑥燃料もれ・油もれの点検

- ・燃料もれや油もれはありませんか？異常のあった場合は整備を行った後ご使用ください。

⑦潤滑油やグリスの塗布

- ・可動部部分には、使用前に潤滑油やグリスを塗布する習慣をつけましょう。

⑧タイヤの点検

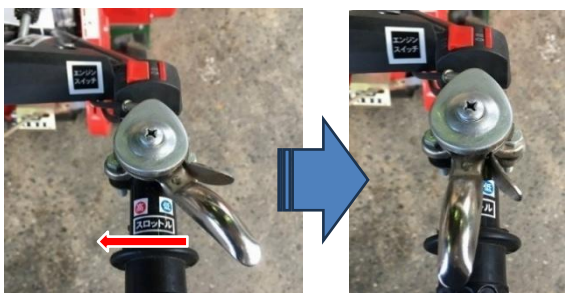
- ・目視にて破損や亀裂が無いか確認します。破損や亀裂があれば修理、交換してください。

2. エンジン始動

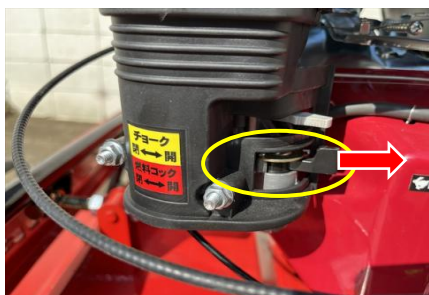
① 操作ハンドル右側のエンジンスイッチをONにします。



② スロットルレバーを左に少しまわします。



③ 燃料コックレバーを右の方向へスライドさせます。
(黒いレバー)



④ チョークレバーを左の方向へスライドさせます。



⑤ リコイルレバーを引くとエンジンが始動します。



⑥ エンジン始動後にスロットルレバーを調整してください。



⑦ エンジンがかかりましたら、チョークレバーを右にして作業を開始してください。



エンジンの止め方

エンジンを止める場合は赤いスイッチをOFFにします。



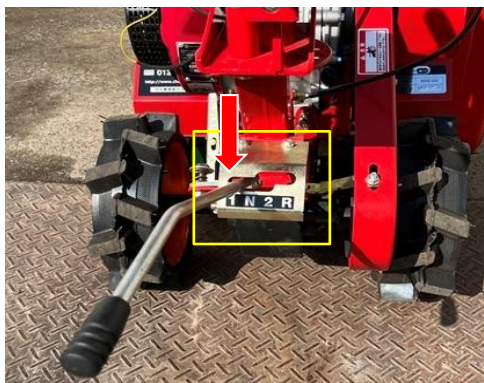
燃料コックレバーを左の方向にスライドさせます。



3. 草刈り作業の開始

① 変速レバーを前進1速に入れる。

変速レバーは前進1速、ニュートラル(N)、前進2速、後進(R)に分かれています。

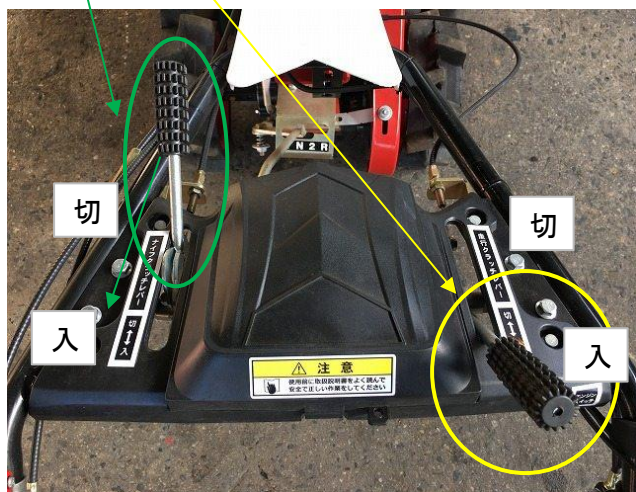


② スロットルレバーを 低⇒高 にまわします。



③ 走行 : 走行クラッチレバーを「切」から「入」の位置にすると走行します。

軸回転 ナイフクラッチレバーを「切」から「入」の位置にすると爪軸が回転し始めます。



④ 旋回時 : 旋回アシストレバーを握ると少ない力で旋回することができます。



※ 直進時に旋回アシストレバーを握ったままにすると不整地やぬかるみでは**タイヤが空転**することがあります。タイヤが空転した場合は旋回アシストレバーから手を放してください。



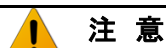
⑤ ギアを変える場合 や 走行を停止する場合は、走行クラッチレバーを「入」から「切」にします。ナイフクラッチレバーを「入」から「切」にして爪軸の回転を停止させます。スロットルレバーを 高⇒低 に戻します。

[新品の機械を使用する場合]

・慣らし運転を行ってください。慣らし運転では、高速運転や高負荷運転をしないようにしてください。

作業終了時はエンジンを止めます。

(エンジンの止め方は8P参照)



注意

- * 作業前に必ず大きな石(こぶし大以上)や固い異物等があれば取り除いてください。
大きな石や固い異物等に刃が当たると、刃が跳ね返り、刃と刃が当たってしまい変摩耗することがあります。
- * ベルトの安全カバーは、必ず取り付けてから作業を行ってください。
- * 刈り取り中は、石や木片などが飛び散ることがあります。周りに人を近づけないようにしてください。
- * 爪軸等に刈った草が過剰に溜まったり、ツル等の巻き付きがあると爪軸に負荷がかかります。

その場合、下記のような不具合が発生する可能性があります。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ベルトが滑ったり、切れたりしてしまう。 ・爪軸のベアリング等が破損してしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・エンジンに負荷がかかってしまう。 |
|---|---|

それらを防ぐため 時折、本機を持ち上げて、溜まった草がないか、ベアリング周辺(特に軸の両端)にツル等の草が巻き付いていないか点検・確認してください。 ある場合は取り除いてから作業して下さい。

手やカマを使って除草する必要がある場合は、必ず、エンジンを停止してから行ってください。

- * 作業中に異音(石など硬い異物がハンマーナイフに当たるような音)がしたら、作業を中断し、点検作業を行ってください。ハンマーナイフに引っかかった異物を取り除く必要がある場合は、必ず、エンジンを停止してから行ってください。

- * 刈り取りが不十分な場合は、格子状に刈り取り、もしくは、往復で作業する事で綺麗に刈り取りする事が出来ます。

- * **作業中は、刈り取った草や茎の破片がリコイルスターター部の冷却風の吸込口に付着したり、シリンダー付近の草詰まりが発生し、エンジンの焼付や火災の原因になります。**

外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。

(清掃方法についてはエンジン周辺の清掃方法を確認してください)



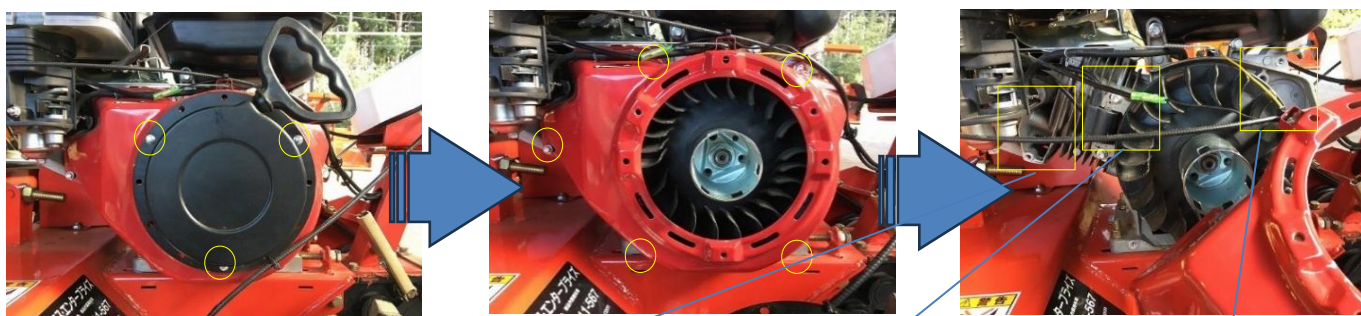
[エンジン周辺の清掃方法]

※エンジン周辺の清掃を怠ると、エンジンの焼付や火災の原因になります。

- ・ご使用後は必ずエンジンを切にして、エンジン周辺の草を取り除いてください。
- ・10時間ごとに下記内容に沿った、清掃を行ってください。

[必要工具: ラチェットレンチ ・ エクステンションバー ・ 8mmソケット]

- ① 8mmのボルトを3本外すとリコイルスターター外れます、8mmのボルトを5本外すと 赤色のカバーが外れます。



- ② 冷却口やシリンダー付近の草を取り除いてください。



4. 調整・交換・給油のしかた

①刈り取り高さの調整



写真上の固定用ナットを緩めてから調整ナットを回してください。
ナットを右に回すと刈高が低く、左に回すと刈高が高くなります。
高さを調整後、調整用ナットを締めしてから固定用ナットで締めつけて下さい。



②ガソリンタンクの点検・給油

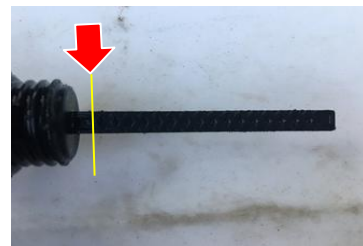
燃料キャップを外し、燃料を確認して下さい。
燃料は無鉛レギュラーガソリンを入れて下さい。
燃料タンク容量は 5.4ℓ ですが、「4ℓ 程度」
を目安に給油してください。
(5.4ℓ入るとあふれる可能性があります)
燃料を入れ終わったら燃料キャップ
をしっかりと締めてください。



4ℓ 程度入れた場合
見え方

③エンジンオイルの点検・交換

給油栓についているレベルゲージで
エンジンオイルの質・量を作業前に
毎回点検してください。
常にレベルゲージの上限までエンジン
オイルは入れておいてください。

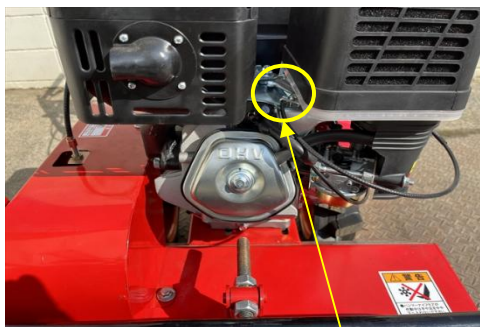


<交換>

- ・本機を水平な場所に移動させ、エンジンが水平になるように調整してください。
- ・オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン下部のドレンプラグを工具を使って外してください。
- ・エンジンオイルを抜き終わったら元通りにドレンプラグをしっかりと締めつけてください。
- ・エンジンオイルを給油口より給油してください。(エンジンオイル量は1.1ℓ、10W-30)
- ・エンジンオイル給油後、オイルがにじみ出ないように、給油栓をしっかりと締め付けてください。

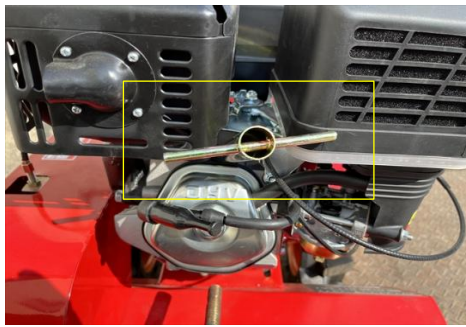
④ 点火プラグの点検

点火プラグキャップを外します



点火プラグキャップ

プラグレンチで点火プラグを外します



電極

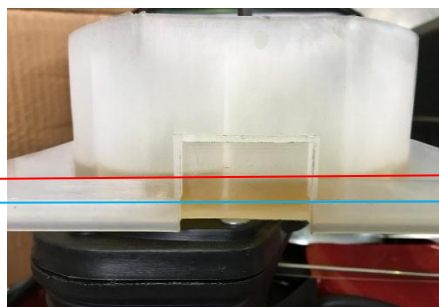
点火プラグの電極部分をワイヤブラシで掃除します。
陶器部分にひび割れ、また電極部分に消耗が認められる場合には点火プラグを新品と交換してください。

⑤ エアクリーナーの点検

エアクリーナーカバーを固定しているネジを外して、エアクリーナーエレメントを取り出し灯油で掃除します。



オイルパン内を灯油で洗浄し、新しいエンジンオイルを下部レベル線まで入れてください。



赤色の線以上入れると入れすぎです。
青色の線ぐらい(赤色の1/3の量)が適量です。

⑥ ギアオイルの交換

ドレンボルトを外してオイルを抜きます。



ドレンボルト

新しいギアオイルを補充してください。

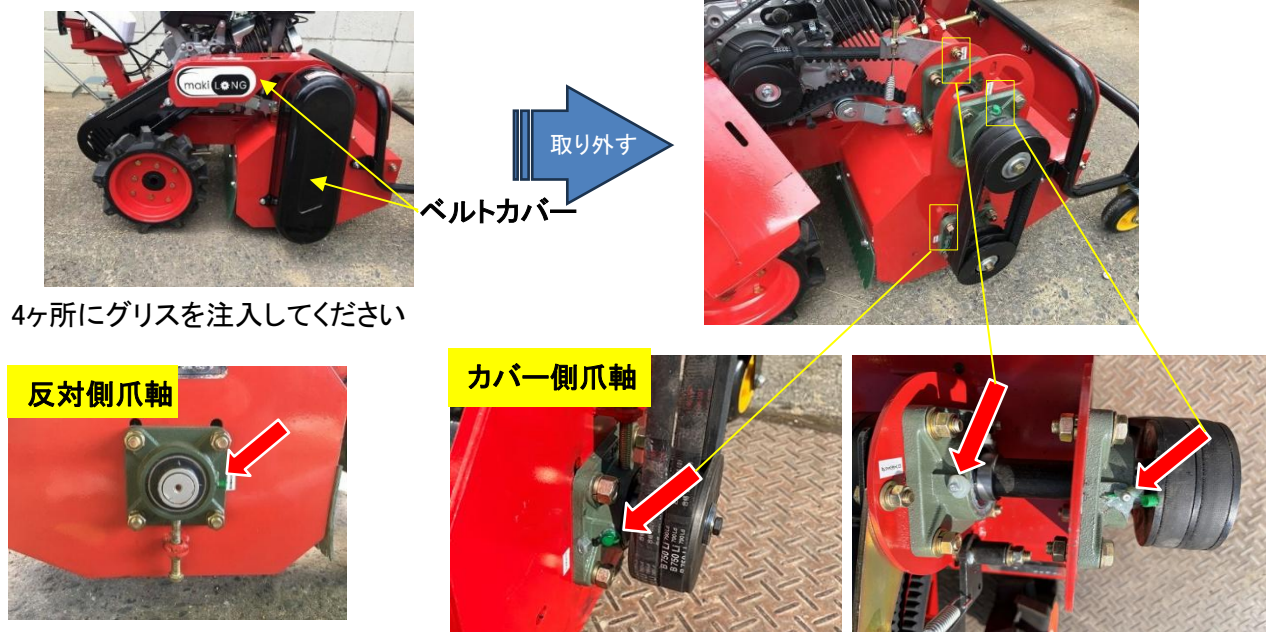
(ギアオイル量は 1.1ℓ #80)



ギアオイル注油口

⑦グリスアップ

2つのベルトカバーを取り外して各部にグリスアップを行います。



⑧旋回アシストレバーの注油

レバー可動部に潤滑油(CRC等)を塗布してください。

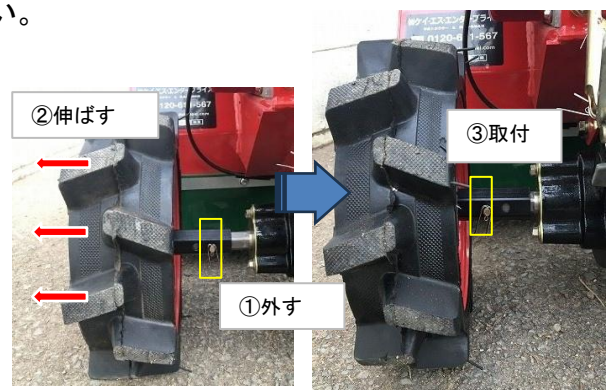


● 車軸幅： 必要な場合は 調整する(幅を広げる)ことができます。

※幅を広げた場合、**旋回能力が著しく低下します**ので、広げる場合はご注意ください。

調整にあたって割ピン2本が必要になります。ご用意ください。

割ピンを外し、車輪のピンを抜き位置を調整してください
調整が終わったら、用意した割ピンをしっかりと装着し
タイヤが外れないようにしてください。



5. メンテナンス

・エンジン周辺の清掃は 10時間ごとに清掃を行ってください。(清掃方法については10Pに記載しています)

※エンジン周辺の清掃を怠ると、エンジンの焼付や火災の原因になります。

・潤滑油は、エンジンとギアボックスの初期使用後15～20時間、その後は50～60時間ごとに交換してください。ギアボックスには十分なオイルが必要です。

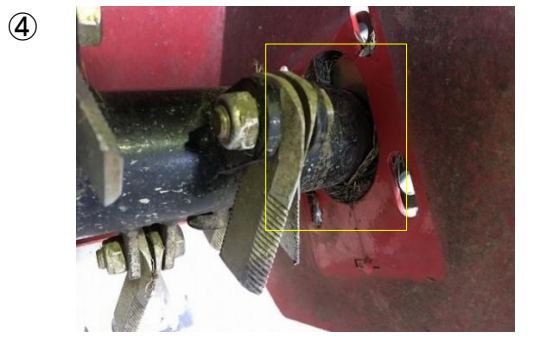
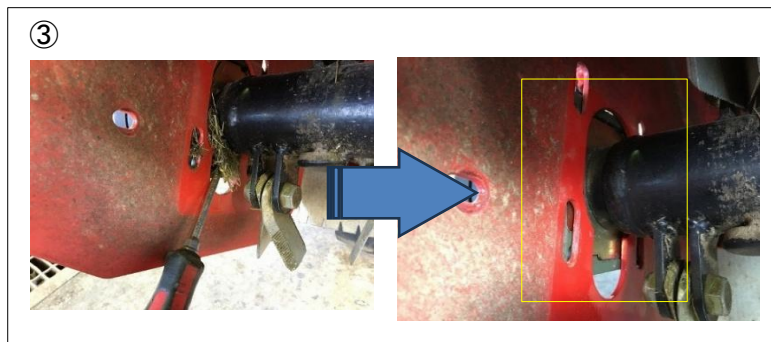
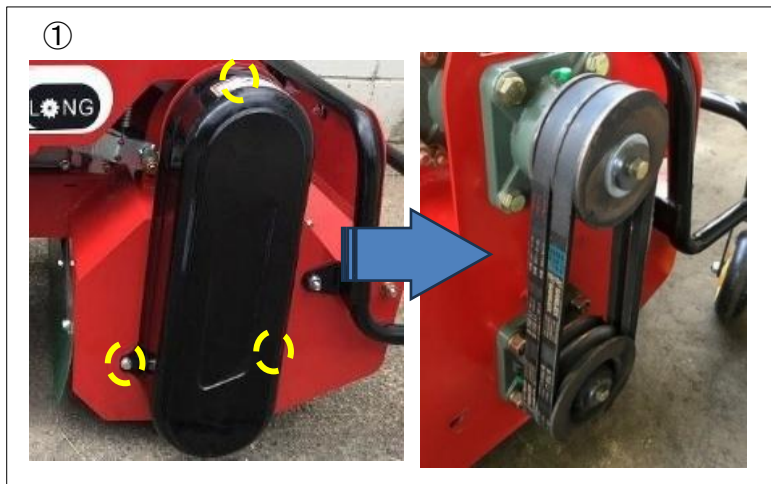
・定期的に爪軸ベアリングの清掃を行ってください



[爪軸ベアリングの清掃方法]

[必要工具: ・12mm ・18mm ・19mm レンチ ※メガネレンチをお勧めしております]

- ① ナイフベルトカバーを外すために12mmのボルト3本を外します。
- ② ベアリングとフレーム内のプレートが共締めされています。
18mmのボルトと19mmのナットを外すとプレートが外れます。
- ③ マイナスドライバーやラジオペンチ等で草を取り除いてください。
- ④ 反対側も同様にプレートを取外して清掃してください。



6. 保管

※ 短期保管、長期保管に関わらず、カバー等をかけてホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

①短期保管

- ・各作業終了後、すべての部品を清掃し、電源スイッチを切り、燃料コックを閉じてください。
- ・保管場所は、可燃物が近くになく、火の元から遠ざけてください。
- ・各部品にゆみや破損がないか確認し、問題があればすぐに解決してください。

②長期保管

- ・平坦な乾いた地面の上で本機を安定させて保管してください。
- ・ガソリンタンク、キャブレターの燃料を抜きます。
- ・エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで放置し、キャブレター内の燃料を使い切ります。
- ・ガソリンタンク内の防錆作業を行います。
- ・子供の手が届かない場所に保管してください。

7.トラブルシューティング

現 象	原 因	処 置
エンジンがかからない 又はすぐに止まる	エンジンスイッチがONになってない	エンジンスイッチをON
	チョークレバーを引いてない	チョークレバーを締めるの位置にする
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開けるの位置にする
	点火プラグの不調	点火プラグを掃除又は交換する
	燃料が入っていない	燃料を補充する
刈残しが出る	エアクリーナが汚れている	エアクリーナーエレメントを掃除する
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	エンジン回転数が低い	最高回転にする
	刃の摩耗、破損 草が長い	新しい刃に交換する 2度刈りをする
ベルトがスリップする	ベルト張力が低い	ベルト張力を調整する
	爪軸カバー内に異物が詰まっている	カバー内を清掃する
	プーリーへの草の堆積	プーリー周りを清掃する
	ベルトの摩耗	新しいベルトに交換する
変速しない	変速位置がズレている	変速プレートの位置を調整する
	ミッションの不具合	ミッションの修理

8.消耗品一覧

	品名	数量
(1)	替刃セット(1台分)	16セット
(2)	走行ベルト	2本
(3)	中間ベルト	2本
(4)	ナイフベルト	2本

(1) 替刃セット

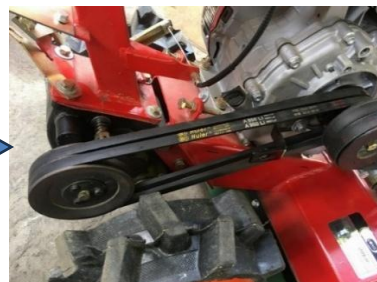
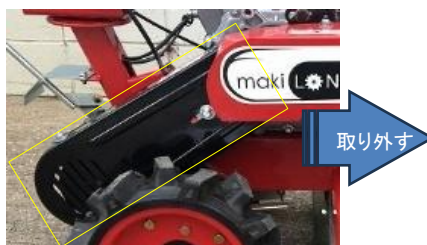
1セット内訳

ボルト・ナット各1

刃:2枚



(2) 走行ベルト



(3) 中間ベルト



(4) ナイフベルト



9.替刃の交換方法

必要工具 : 18mm、19mm のレンチ

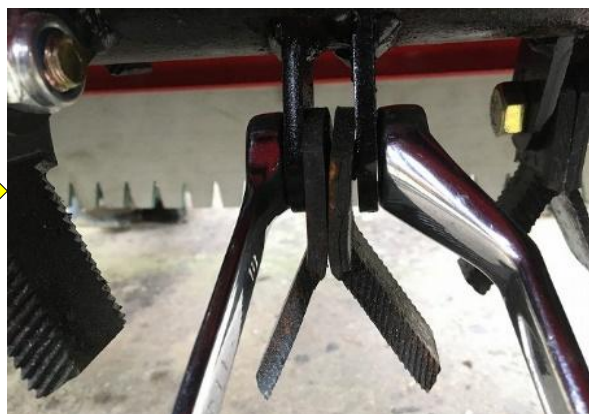
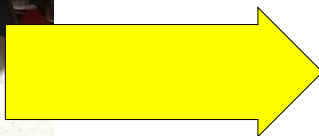


替刃を取り付けしているボルトとナットのサイズはボルト 18mm ナット 19mm です。
18mm 、 19mm サイズのレンチ、又はサイズ調整のできるモンキーレンチを用意して下さい。
※18mm コンビネーションレンチ は弊社で販売もしております。
ご希望の場合はご連絡ください。

使用部品 : 替刃セットをご用意下さい。

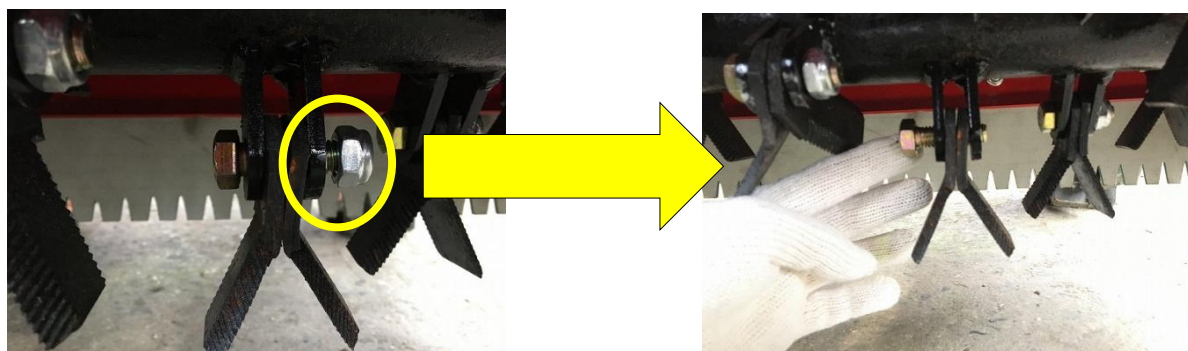


作業①

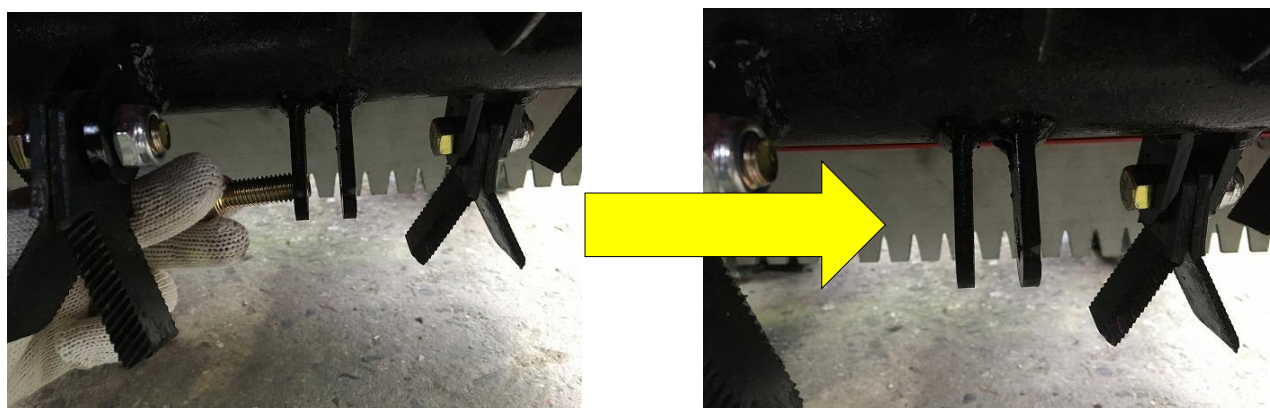


サイズの異なるレンチを使用し、ナットを緩めます。
レンチのサイズは、緩めるナット側が 19mm 、押さえるボルト側が 18mm です。

作業②



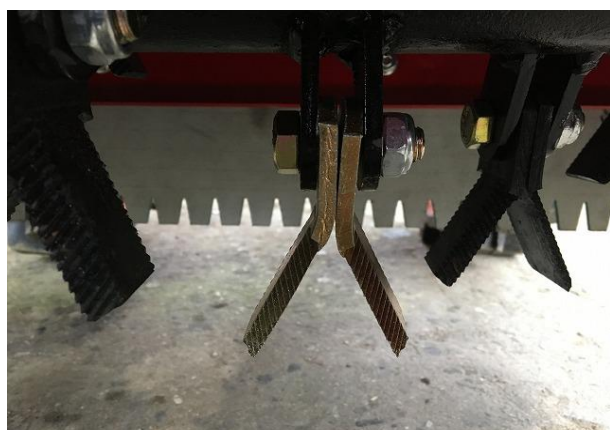
ナットが外れたら、ボルトを抜いて替刃を外して下さい。



取り付けの際は逆の手順で取り付けて下さい。

付けた時の完成形は、下記写真の **完成形** をご確認ください。

完成形



ご意見、お問合せ

本機についてのご意見やお問合せがございましたら、下記の所までご連絡ください。

中古農機屋さん 株式会社 ケイ・エス・エンタープライズ

整備センター 〒518-1152 三重県伊賀市予野1534

事務所 〒604-8841 京都市中京区壬生東土居ノ内町17番地5

TEL 0120-611-567

E-mail info@chuko-noki.com



自走式草刈機 MHE-600D



株式会社 ケイ・エス・エンタープライズ
フリーダイヤル : 0120-611-567